

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会  
第3回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和3年2月15日（月） 10：00～12：00

---

■ 場 所：Web会議形式（Zoom）

---

■ 議事要旨

---

1. 第2回 荒川流域エリア・ワーキングの開催結果について

(1) 議事要旨、指摘対応表の確認【資料1】

- ・第2回ワーキングの議事要旨、指摘と対応表の確認を行った

2. 荒川流域エリア・アクションプランの策定について

(1) 更新箇所の確認【資料2】

- ・第2回ワーキング時の指摘内容を踏まえた更新箇所を示した。

(2) ロードマップと連携・共同方策に関する意見交換

- ・アクションプランの推進における連携・協力の方策について意見交換が行われた。

3. 次年度の取り組みについて

(1) ワーキングの組織継続に関する確認（規約改定案の相談）【資料3】【資料5】

- ・荒川流域エリア・ワーキング規約改定案に関して意見交換が行われた。
- ・今後のスケジュールについての確認を行った。

(2) 次年度の取り組みに関する意見交換（プランの実行方針）【資料4】

- ・次年度以降のアクションプランの実行方針について確認を行った。

4. 今後の予定等

(1) 今年度スケジュールに関する確認【資料5】

- ・今年度の今後のスケジュールについての確認を行った。

■ 配布資料

---

- ・議事次第／出席者名簿／規約・委員名簿（WG）
- ・資料1：第2回 荒川流域エリア・ワーキング 議事要旨／指摘対応表
- ・資料2：荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（最終案）
- ・資料3：荒川流域エリア・ワーキング 規約改定案
- ・資料4：令和3年度 取り組み計画（案）
- ・資料5：本年度全体スケジュール

■出席者

構成	氏名	団体名等
学識経験者	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授
	高木 嘉彦	(公財) 埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長
	日橋 一昭	(公財) 東京動物園協会 総務部 教育普及センター所長
市民団体	川島 秀男	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事
	伊藤 鑄義	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事
関係自治体	大島 和之	鴻巣市 環境経済部 環境課長
	荒井 崇志	桶川市 市民生活部 環境課 係長
	浦 直樹	北本市 市民経済部 環境課長
	青木 健	川島町 農政産業課長
	笛木 学	吉見町 農政環境課 係長
行政機関 関係 事務局	加島 恭美	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹
	米沢 拓繁	荒川上流河川事務所 副所長
	鬼頭 岳彦	荒川上流河川事務所 河川環境課長
	新保 美奈子	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長
※	荻原 一徳	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長

※ オブザーバー

## ■ 議事内容

### 1. 第2回 荒川流域エリア・ワーキングの開催結果について

#### (1) 議事要旨、指摘対応表の確認

##### ○ 事務局

【資料1】第2回 荒川流域エリア・ワーキング 議事要旨／指摘対応表の確認

→意見なし。

### 2. 荒川流域エリア・アクションプランの策定について

#### (1) 更新箇所の確認

##### ○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（案）の更新箇所を説明。

#### (2) アクションプランの内容等の確認

##### ○ 浅枝座長

資料2の2ページの役割分担について、各種広報における研究者の役割分担が空白になっているが、荒川流域を対象に研究を行い、論文などの形で広報していただきたいという意味合いで、実施主体とすべきである。

##### ○ こうのとりを育む会

鴻巣市では6年前からハクチョウが来ている。農家の協力で冬水田んぼをやっているが、ハクチョウが来ている田んぼと来ていない田んぼがあり、ハクチョウは無農薬の田んぼには来ている。ハクチョウが来ていない田んぼは今まで除草剤などを使用していたようなあので、それが残っているからかもしれない。

##### ○ 荒川流域ネットワーク

鴻巣市の冬水田んぼは、無農薬で8年やっており、6年前からハクチョウが飛来している。もっと荒川流域の人々に知ってもらえる活動をしていければよい。

##### ○ 浅枝座長

鴻巣市の田んぼを対象に様々な活動をしてもらうことも必要かもしれない。市民の人々の活動の原点ともなり、そこからさまざまな情報発信ができればそれが地域の活性化につながっていく。

##### ○ 高木委員

最終的には餌生物が多いところに巣塔を建てるなど、次の段階を提示できるような目標をアクションプランに組み込めればよい。

## ○ 事務局

次年度以降コウノトリの飛来状況に合わせたアクションが必要になると考えている。具体的な行動については随時委員の皆様にご相談させていただきたい。

## ○ 鴻巣市

荒川流域には未発掘のものが多くある。大間地区の環境整備などにより生物が飛来し、人も集まってくる。明秋・釜虎など、知られていない場所があるので、発掘しながら保全活動をしていけば活動も広がると考えている。

## ○ 日橋委員

アクションプランの中心にコウノトリがあると思うが、域内保全と域外保全の連携が必要となる。域外保全についてはそろそろ全体的なロードマップを示す必要があるのではないかと。また、アクションプランのイラストに哺乳類の絵がない。荒川流域は生物多様性に優れるので、哺乳類（タヌキなど）を書いておくとよい。

## ○ 高木委員

域外保全のロードマップは鴻巣市や IPPM-OWS との連携が必要なので、段取りが必要となる。鴻巣市や IPPM-OWS との兼ね合いを見据えながら域外保全のロードマップを作成する必要がある。

## ○ 浅枝座長

域外保全などについては重要な考え方なので、今後の活動を通して、説明、啓発していく。また、哺乳類の絵は入れた方がよい。タヌキのような生物が身近に現れる地域が作れれば素晴らしいことである。

## ○ 吉見町

資料2の12pのプラン5のイラストについて、この地域に山脈がこの距離感で見られる景色はない。

エコネット地域づくり推進には市町村からは環境担当が参加しているが、今後は農政担当や観光担当とのつながりが重要になると考える。無農薬水田について書かれているが、農政担当と取り組んでブランド化（コウノトリ米等）を進め、利益が出る仕組みを考えないと農家の方々は動けないのではないかと。

## ○ 浅枝座長

ブランド化に関するキーワードはアクションプランに入っていた方がよい。

## ○ 事務局

基本的には今回のアクションプランはこれまでの活動を継続することをベースとし

ている。ブランド米については資料 2 の 10p (これまでの取り組み) に書かせていただいております。今後、ブランド化した例が増えていけばマップを作成したり、アクションプランのブラッシュアップ時に取り込んでいくことも可能と考えている。

ブランド化を進めるに当たっては、エコネットの地域づくりの一環として、SNS で広報するなど協力できればと考えている。

#### ○ 事務局

今までのワーキングの議論も踏まえ、資料 2 の 13p に「荒川流域エリアにすむ（または訪れる）一人ひとりの関わり方も大切」という表現を追加させていただいたが、本日の案では「役割分担」の中には、市民という枠は設けていない。この点についてご意見をいただきたい。

#### ○ こうのとりを育む会

若い人たちに生物や環境に興味を持ってもらうのはいいことである。若い人に会議に出てもらって意見を取り入れればいいし、様々な市民団体に協力を依頼するのもいい。

#### ○ 荒川流域ネットワーク

鴻巣市でも若い人でコウノトリに興味を持っている人はいる。無農薬農法の水田などを増やしていく必要がある。

#### ○ 浅枝座長

学校と連携といっても小中高で意味合いが変わるため、学校との連携にも様々な形がある。

#### ○ 高木委員

自然や環境に興味を持ってない人でも興味を持つようなイベントを強く押し出してほしいと考える。エコツアーはもともと興味がある人を呼び込むものであり、そういった活動に興味がない人を引き込む活動が必要である。広報にそういったイベントを加えるとよい。

#### ○ 浅枝座長

10 年先には生活スタイルは大きく変わり、想像できないような部分までアクションプランが実行可能になっている可能性がある。今は各プランの【目指すもの】の部分が控えめに書かれている。

#### ○ 事務局

【目指すもの】の部分で、新たな人を取りこんでいく考えを表現する。13p のロードマップにおいても、幅広い視点でとらえられるような表現に修正したい。

○ 浅枝座長

先進国では休日は自然を散策し、バーベキューを楽しむ生活スタイルに動きつつあり、日本もいずれそうなる。その自然の場を提供する意味もあり、エコネットの取り組みが重要となる。控え気味に考えてしまうが、もっと積極的に考えて良い。

○ 高木委員

アクションプランの中に外来種の駆除が入っているが、外来種の定義はどこまでを外来種として考えるのか意識の統一が必要だと考える。

○ 浅枝座長

荒川に元から生息していない種については考えていく必要がある。個々の種の取り扱いについては具体的にアクションプランが開始してから議論していくべきかと考えるが、基本は荒川に昔からいた生物を基準として考えることがよい。

○ 日橋委員

今回のアクションプランを見ても子どもたちはどのように行動を起こしたらよいかわからない。行動変容を促すことを我々の命題にしなければならないが、そのためにはフィールドノートが重要で、各々が行動し、その小さな変化の積み重ねに子供たちを巻き込んでいくことが理想である。また、SNSを積極的に活用して子供たちを巻き込んでいくべきと考える。

### 3. 次年度の取り組みについて

(1) ワーキングの組織継続に関する確認（規約改定案の相談）

○ 事務局

【資料3】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（案）の更新箇所を説明。

○ 鴻巣市

第2条の中に「荒川流域エコネット地域づくり・アクションプラン」を実行するために必要な対応を図り、と書かれており、その中で来年度は生き物合同調査、外来種対策等の連携、エコネット魅力マップやサイクリングマップなどが挙げられている。情報発信は重要なことだが、これらを作るためにある程度予算がかかるものも出てくる。予算を確保しなければ計画をたてても実行するのが難しいと考えられるので、事務局にはいろいろ検討していただきたい。

○ 事務局

来年度は事務局がとりまとめ主体となり、地域の情報などを提供いただく部分で各自治体の方にご協力をお願いしたい。予算がかかる大きな取り組みについては皆様とよく相談しながら進めていきたい。

○ こうのとりを育む会

今後のWG組織について、新たな市民団体はどのように選定されていくのか？

○ 事務局

WG設立時にお声かけを行ったNPOを想定している。それ以外については、将来的にアクションプランを進める中で、議論に加わっていただきたい方がいれば追加していくものと考えている。

#### 4. 今後の予定等

(1) 今年度スケジュールに関する確認

○ 事務局

【資料5】今年度の今後のスケジュールを説明。

○ 浅枝座長

具体的なスケジュールとして、R3年度の取り組みという形になる。この段階は外でいろいろな活動をするというわけではなく、どういった活動が行われているのかをまずは情報として引き出す段階になる。基本的にはコロナ禍でも活動可能と考える。

○ 事務局

大前提として情報を引き出すという部分はやらせていただき、可能であれば、生き物調査は実施したい。

○ 浅枝座長

場合によっては現地を見ることも必要だが、来年度のアクションは情報収集が中心となっており、コロナ禍の中でも進められる。

○ 高木委員

具体的な生き物調査の場所は想定されているのか。

○ 事務局

まだ具体的には決められていない。ご協力いただければ冬水田んぼを有力な候補として考えている。

○ 高木委員

四季で生物相も変化するので、1年を通して特定の場所で行うことがよい。

○ 荒川流域ネットワーク

春夏秋冬で3月も生き物調査をやるのがよい。

○ こうのとりを育む会

継続して期間を短くして調査を行うのがよい。

○ 浅枝座長

毎日調査を行う必要はない。四季で日程を調整して調査をするのは考えられる。冬水田んぼが対象となっているが、各自治体で売り出したい場所があれば、そういった場所も加えていくのがよい。

○ こうのとりを育む会

生き物調査の対象とする冬水田んぼは水が近くに豊富にある場所を選んだほうが良い。常に水が流れている川のそばで行った方が手間がなく、成功率も高い。

○ 浅枝座長

対象は田んぼだけではなくともよい。小川や荒川の川岸近くも候補として考えられる。荒川は河川敷が広いため、自然が豊富で様々な生物が住んでいる。そういった側面をアピールしていくべきだと考える。事務局の都合もあり、すぐには対象を決められないが、バラエティーに富んだ場所を対象とした方がよいと感じている。対象の場所も広がっている方がよく、徐々に広げていくのもよい。

○ 高木委員

資料1、p3のプラン4にコウノトリ生息ポテンシャルマップの作成とあるが、生き物調査の結果等を踏まえてやらなければならないものもあるが、とりまとめはどこで出すのか、その決め方はどうするのか。

○ 浅枝座長

資料5のR3年度アクションプランの推進において、期初と期末のWGの間に、現在具体化のイメージ案に上がっているようなものが出てくると思われる。その案を議論して加工していく作業が発生する。この段階では最終的なものを作成する必要はないが、情報の加工は必要である。

○ 高木委員

調査をして、結果を集めて、評価をしてそれをもとに次の調査を行うPDCAサイクルが必要になる。

○ 浅枝座長

具体的にこれまで実施していた作業もある。そういった情報を集めて動き出すこと



になるかと考えている。

#### ○ 事務局

アクションプランは着手できる部分から進めていきたい。最終的には資料4のp3の取り組み項目に書かれているものは実施していきたい。特に赤枠の部分は早期に着手可能と考えており、ここから実施していくのがR3年度のアクションプランの実行イメージとなっている。

また、ポテンシャルマップの作成に必要な情報の調査を進めている。マップの作成については今後相談させていただき、結果については次年度以降に予定する推進協議会で議論する流れを考えている。

#### ○ 浅枝座長

年2回の推進協議会の開催が予定されているが、もっと気軽に調べたことを各々発表していただくような勉強会があるとよいと考えている。そういった場に高校のクラブの方や小学生に来ていただいてもよい。

#### ○ 日橋委員

Webで子供たちを集めるのがよい。

#### ・ 閉会の挨拶

##### ○ 荒川上流河川事務所 米沢副所長

本日アクションプラン最終案、規約、スケジュールの確認を行わせていただいた。アクションプランの基本的な考え方を示したが、行動を継続していくために順応的な見直しが必要であるため具体的な運用については皆様と議論していきたい。エコロジカルネットワークの取り組みは本日参加されている方だけではなく、地域の皆様一人一人がこのエコロジカルネットワークに対して強く意識を持っていただくことが何よりの目標であると考えている。アクションプランのキーワードである自然と治水が調和した地域づくりのための行動計画に基づいて進めていきたい。今後とも皆様にご協力いただきたい。本日の議論を経てまとめたものを、3月4日に報告させていただきたい。

以 上